

## 会 議 録

1 開会 進行：文化振興課文化施設係長

2 あいさつ 職務代理者（会長欠席のため）  
文化振興課課長  
館長

3 協議事項

(1) 平成30年度事業報告について

・質疑、意見等なし。

(2) 令和元年度事業計画（案）について

・質疑、意見等なし。

(3) その他

**委員** 書道講座への参加者が少ないとの話があったが、塾をやっている、今の会員の年齢が上がってきて、若い人が入会してこないの、減っていく事となる。

書道講座の様な専門的なものは参加差に敬遠されるのでは。また、佐久市でやるにしても、この場所が遠いのではないかと。

**委員** 佐久市と合併する前は、佐久市からは参加者が無く、上田、松本、軽井沢から来ていた。合併してからは、佐久市内が多くなった。

地区公民館の文化祭にも書道の出品が少なくなった。書道人口が減っていることもあるが、人口、子供の数が減っている。

入門講座の受講者が、今年3名が画紗会に参加した。

**委員** 私の地域でも子どもが減り、180軒位あるが、小・中・高生併せて5人しかいない。

**委員** 天来の生誕の地であるので書の町にしなくてはいけない。それには、書道人口を特に子どもを増やしていくのが、使命であると思う。

**委員** 臨書展は、だれでも出品できる作品展であり、全国から出品されているがもっと地元から出品してもらうPRの必要があるのではないかと。

ポスター、チラシの紙質を落としてでももっと駅とか地元にたくさん貼ってもらってPRし、地元で臨書について知ってもらう必要があると思う。

**館長** 市内の各施設、駅、JA等にはお願いに行っているが、佐久地域からの出品が少ないので、どうしたら増えるか、委員の皆さんにご協力をお願いした。

**委員** 書道人口が減っているの、社塾、学校等をお願いするしかない。一般の人達は

臨書展を知らないなので、筆を持つ人を増やすしかない。うちの地区の公民館は、指導者が臨書展を念頭に置いて、指導している。

**委員** 望月地区からは出品されていない。画沙会も出品していない。記念館を借りて自分達の作品展は開催している。

当時苦勞して建てた記念館であるので、望月の地元として守っていきたいが、人口が減り大変になって来ている。

**委員** 天来記念館は、後世に伝えていかなければいけないが、例えば私は望月高校に勤務しているので、臨書展に出品するのは使命だと思うが、書道部は、去年は3名いたが現在1名になってしまった。臨書展には、出品していない。

第1回の時に野沢南高校に勤務していて、出品したが、他の書道展と比較して、高校生には出品料、表装代が高かった。今は、だいぶ改善されたが、初めのイメージがあるし、もう少し安くできないか。

審査は、各地から日本を代表するような先生たちが集まってきているが、そこに地元である私達も加えてもらい、関わっていくのが良いと思う。

臨書展、書き初め展などは、学校の先生にもっと知ってもらう必要があると思う。

少子化なので、数が減っていくのは仕方ないが、スポーツはスポーツ、書道は書道で分野が違うので、どちらもやってほしい。

**委員** 地元の先生たちが審査を行うのは、どうか。

**委員** 全国となると地元の先生の審査では厳しいと思う。

臨書展が大きくなれば、記念館への来館者も増えるようになると思う。

#### 4 閉会